

情報モラル教育 実践事例集



平成 27 年 3 月
高知県教育委員会

はじめに

情報社会の進展に伴うスマートフォンやタブレット PC などの情報端末の普及や情報通信技術の高度化などにより、いつでもどこでも、気軽にインターネットへ接続することができるようになりました。

内閣府が実施した「平成 25 年度青少年のインターネット利用環境実態調査」によると、携帯電話・スマートフォンの所有率は小学生 36.6%、中学生 51.9%、高校生 97.2%となっており、そのうちスマートフォンの占める割合は中学生で約 5 割、高校生では 8 割を超え、年々増加する傾向にあります。また、携帯電話・スマートフォンを所有している中学生の 82.1%、高校生の 96.7%がインターネットを利用しており、利用状況では SNS サイトやチャット等のコミュニケーションが増加しています。

このように、インターネット利用が広がる一方で、児童生徒がネットトラブルに巻き込まれる事案も増えてきています。警察庁によると、平成25年度にコミュニティサイトに起因して児童生徒が犯罪被害に遭った事犯の検挙件数は 1,804件となっています。また、文部科学省が実施した「平成25年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」では、いじめの態様に関して、「携帯電話等での誹謗中傷」が8,788件となっており、どちらも増加傾向にあります。

そのような状況のなか、児童生徒をネットトラブルから守るためには、情報社会の影の部分を含めた特性を理解し、情報社会に積極的に参画する態度を育てることが重要であり、学習指導要領においても、「各教科等の指導に当たっては、児童生徒が情報モラルを身に付けるための学習活動を充実すること」が示されています。

また、平成26年 3 月に策定された「高知県人権施策基本方針―第 1 次改定版―」には、県民に身近な人権課題として「インターネットによる人権侵害」が新たに加わり、各学校で課題解決に向けた学習に取り組むことが求められています。

そこで、県教育委員会では、これらの現状を踏まえ、児童生徒に情報モラルをしっかりと身に付け、インターネットを正しく、安全に利用する態度を培うために、情報モラル教育実践事例集を作成しました。

今後、すべての学校で児童生徒の情報モラルの向上に資するよう、本実践事例集が活用されることを期待しております。

平成 27 年 3 月

高知県教育長 田村 壮児

目 次

1 実践事例集の活用にあたって・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

2 実践事例

(1) 小学校低学年（道徳）・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

校種	小学校	学年	低学年	教科等	道徳	キーワード	情報の改ざん
主題名	規則の尊重				指導する時間	1時間	
本時のねらい	約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にする。						
使用する資料	けいじばんの らくがき（自作資料）				指導項目		
					b1-1:人の作ったものを大切に する心をもつ		

(2) 小学校中学年（学級活動）・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

校種	小学校	学年	中学年	教科等	学級活動	キーワード	ネットコミュニケーション
題材名	うまく伝わったかな？				指導する時間	1時間	
本時のねらい	相手が見えないコミュニケーション手段の特徴を理解し、相手の立場を考えた行動をとることができる。						
使用する資料	「適切なコミュニケーション」 出典：文部科学省 情報化社会の新たな問題を考えるための教材～安全なインターネットの使い方を考える～ 動画教材 http://jouhouka.mext.go.jp/information_moral_manual.html				指導項目		
					c2-1：情報の発信や情報をやりとりする場合のルール・マナーを知り、守る		

(3) 小学校高学年（学級活動）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

校種	小学校	学年	高学年	教科等	学級活動	キーワード	ネット被害 保護者啓発
題材名	自分が被害に遭う問題				指導する時間	1時間	
本時の ねらい	インターネット上には、無料を装って個人情報を取得するサイトやアプリが存在することを理解するとともに、危険を回避し、安全に賢くインターネットを利用する態度を育てる。						
使用する 資料	「個人情報を守るのは自分だよ」 出典：文部科学省 情報化社会の新たな問題を考えるための教材～安全なインターネットの使い方を考える～ 動画教材 http://jouhouka.mext.go.jp/information_moral_manual.html				指導項目		
					c3-1:何がルール・マナーに反する行為かを知り、絶対に行わない		

(4) 小学校高学年（道徳）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

校種	小学校	学年	高学年	教科等	道徳	キーワード	ネットいじめ
主題名	公正、公平、社会正義				指導する時間	1時間	
本時の ねらい	誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努める。						
使用する 資料	「友だちへのネットいじめ」 出典：一般財団法人コンピュータ教育推進センター（CEC） ネット社会の歩き方 http://www.cec.or.jp/net-walk/				指導項目		
					a3-1:他人や社会への影響を考えて行動する		

(5) 中学校 (技術・家庭科：技術分野) 33

校種	中学校	学年	第1学年	教科等	技術・家庭科 (技術分野)	キーワード	ルールづくり
題材名	「我が家のスマホ等の情報端末使用のルール 5カ条づくり」 ※ D(1)ア、イ、ウ、(2)ア、イ				指導する時間	全9時間	
本時の ねらい	スマホ等の情報端末を使用する際のルールを考える。						
使用する 資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニホワイトボード ・前時に作成した情報モラルクイズ ・ワークシート 				指導項目		
					f4-2:自他の安全面に配慮した、情報メディアとのかかわり方を意識し、行動できる		

(6) 中学校 (保健体育：保健分野) 40

校種	中学校	学年	第3学年	教科等	保健体育 (保健分野)	キーワード	ネットと健康
単元名	健康な生活と疾病の予防				指導する時間	全6時間	
本時の ねらい	健康な生活や疾病の予防をするためのネット環境について、学習したことを自分たちの生活や事例と比較したり、関係を見付けたりするなどして筋道を立てて考えるとともに、自分自身の生活を見直すことができる。						
使用する 資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート「事例ABC」 ・学習カード 				指導項目		
					f4-1：健康面に配慮した、情報メディアとのかかわり方を意識し、行動できる		

(7) 高等学校 (国語科) 49

校種	高等学校	学年	1年	教科等	国語総合	キーワード	インターネット
単元名	現代社会における問題点について考えよう。					指導する時間	全5時間
本時のねらい	インターネットの普及によって起こる問題点を筆者の考えを踏まえながらグループで話し合い、ネットワークの公共性を維持するために、主体的に行動しようとする態度を育成する。						
使用する資料	評論「ネットが崩す公私の境」(黒崎政男) 高等学校国語総合現代文編(三省堂)					指導事項 i5-1:ネットワークの公共性を維持するために、主体的に行動する	

(8) 高等学校 (ホームルーム活動) 53

校種	高等学校	学年	全学年	教科等	LHR	キーワード	インターネット投稿
題材名	情報社会における自分の責任や義務					指導する時間	1時間
本時のねらい	インターネットを利用したSNS等の投稿がどのような影響を他者や自分に及ぼすかを知り、自他の情報の安全な取り扱いに関して、正しい知識をもち、情報社会における自分の責任や義務について考え行動できる態度を育てる。						
使用する資料	「情報の記録性、公開性の重大さ」出典：文部科学省 情報化社会の新たな問題を考えるための教材～安全なインターネットの使い方を考える～ 動画教材 http://johouka.mext.go.jp/information_moral_manual.html					指導項目 a5-1:情報社会において、責任ある行動をとり、義務を果たす	

3 参考資料 61

1 実践事例集の 活用にあたって

実践事例集の活用にあたって

1 子どもたちを取り巻く情報社会の現状について

今日、情報社会の進展により、子どもたちが気軽にインターネットを利用できるようになっています。内閣府「平成26年度青少年のインターネット利用環境実態調査結果」によると、青少年の7割台後半がインターネットを利用しており、その情報端末は、スマートフォン(42.9%)、ノートパソコン(23.0%)、携帯ゲーム機(18.5%)、タブレット(12.6%)、デスクトップパソコン(11.0%)、携帯音楽プレイヤー(9.5%)など多岐にわたっています。このような状況のなか、青少年のインターネット利用は、学校種が上がるにつれて長時間傾向を示しており、とりわけ、高校生では、6割台前半がスマートフォンを通じて2時間以上インターネットを利用しているという結果がでています。

また、警察庁「コミュニティサイトに起因する事犯に係る調査結果(平成26年上半期)」によると、コミュニティサイトに起因して犯罪被害に遭った児童生徒は698人(前年同期比100人増)となっており、平成25年上半期以降増加傾向にあります。同じく、文部科学省「平成25年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」では、いじめの態様に関して、「携帯電話等での誹謗中傷」が8,788件と年々増加しており、このような傾向は本県においても同様です。

インターネットの普及により、正しく、安全に利用すれば、たいへん便利で生活も豊かなものとなります。しかしながら一方で、使い方を誤ってしまうと、その誤った情報が一瞬のうちに全世界に広がり、回収できなくなったり、いじめや犯罪等のネットトラブルに巻き込まれたりすることも危惧されます。

私たちは、これからの情報社会を生き抜く児童生徒に、「情報モラル」をしっかりと身に付けさせ、ネットトラブルから自分自身を守るための判断力や実践力を養う学習を展開していく必要があります。

2 情報モラルとは

「情報モラル」とは、「情報社会で適正に活動するための基となる考え方や態度」のことであり(小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領解説総則編及び道徳編)、その範囲は、「他者への影響を考え、人権、知的財産権など自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつこと」、「危険回避など情報を正しく安全に利用できること」、「コンピュータなどの情報機器の使用による健康とのかかわりを理解すること」など多岐にわたっています。

3 児童生徒に情報モラルを身に付けさせるためには

「情報モラル教育」とは、よりよいコミュニケーションや人と人との関係づくりのために、情報手段をいかに上手に賢く使っていか、そのための判断力や心構えを身に付けさせる教育であり、その柱は次の5つになります。(P4～5参照)

1. 情報社会の倫理(情報に関する自他の権利を尊重して責任ある行動を取る態度)
2. 法の理解と遵守(情報社会におけるルールやマナー、法律があることを理解)

- し、それらを守ろうとする態度)
3. 安全への知恵（情報社会の危険から身を守り、危険を予測し、被害を予防する知識や態度)
 4. 情報セキュリティ（生活の中で必要となる情報セキュリティの基本的な考え方、情報セキュリティを確保するための対策・対応についての知識)
 5. 公共的なネットワーク社会の構築（情報社会の一員として公共的な意識をもち、適切な判断や行動を取る態度)

また、学習指導要領では、小学校・中学校・高等学校とも、総則の「指導計画の作成等（教育課程の実施等）に当たって配慮すべき事項」として、「各教科（・科目）等の指導に当たっては、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段の適切な活用や情報モラルを身に付けるための学習活動を充実すること」が示されており、「全ての教科等における全ての教員による情報モラル教育」の推進が求められています。

さらに、小学校・中学校の道徳の「指導に当たっての配慮事項（指導計画の作成と内容の取扱い）」では、「児童（生徒）の発達段階や特性等を考慮し、道徳の内容との関連を踏まえて、情報モラルに関する指導に留意すること」としており、道徳教育での情報モラルの指導について位置付けを明確にしています。

4 情報モラル教育実践事例集の活用について

このような状況を踏まえ、県教育委員会では、学校教育における情報モラルに関する指導の充実を図り、児童生徒をネットトラブルから守るために、「情報モラル教育実践事例集」を作成しました。

この事例集には、小学校低学年・中学年・高学年、中学校、高等学校あわせて8つの事例を掲載しており、その事例のなかには、「個人情報の取扱いの問題」「ネットにおけるコミュニケーションの問題」「ネットいじめ」「ネット依存」など喫緊の課題についても取り上げています。

併せて、学習指導要領の趣旨に沿って、情報モラル教育を各教科等の学習で取り扱えるよう、道徳の時間や特別活動（学級活動）はもちろん、保健体育、技術・家庭科、国語と、様々な教科・領域での実践事例を示しています。

(1) 本事例集の見方

各実践事例については、はじめに、次のような表を示して、校種、学年、教科等、キーワード、題材名、本時のねらい、使用する資料、指導項目が分かるようにしています。

校種	小学校	学年	中学年	教科等	学級活動	キーワード	ネットコミュニケーション
題材名	うまく伝わったかな？					指導する時間	1時間
本時のねらい	相手が見えないコミュニケーション手段の特徴を理解し、相手の立場を考えた行動をとることができる。						
使用する資料	「適切なコミュニケーション」 出典：文部科学省 情報化社会の新たな問題を考えるための教材～安全なインターネットの使い方を考える～ 動画教材 http://jouhouka.mext.go.jp/information_moral_manual.html					指導項目 c2-1：情報の発信や情報をやりとりする場合のルール・マナーを知り、守る	

この指導項目は4・5ページの情報モラル教育指導事項表に対応しています。

この表の次に、各教科等の学習指導案の形式に沿った形で、実践事例を掲載しています。加えて、学習で使えるアンケートやワークシート等の例も示していますので、学校の実情や児童生徒の実態にあわせてご活用ください。

(2) 実践するにあたって

- 実態把握を行いましょ。う。
 - ・ 児童生徒を取り巻く情報にかかわる環境は日々進化しています。まずは、アンケート調査等を用いて、実態を把握しましょ。う。

- 年間指導計画に沿って学習を行いましょ。う。
 - ・ 各教科や領域の年間指導計画に情報モラルについての学習を位置付け、系統的・計画的に情報モラル教育を推進するよう努めましょ。う。
 - ・ 「高知県人権施策基本方針ー第1次改定版ー」の策定に伴い、「インターネットによる人権侵害」が新たな人権課題として追加されたことを踏まえ、人権教育年間指導計画にも情報モラルについての学習を位置付け、人権教育の視点と重ねて学習しましょ。う。

- 資料や教材の工夫を行いましょ。う。
 - ・ 既存の教科書教材や資料だけでなく、文部科学省や国立教育政策研究所、総務省、警察庁などのホームページには、すぐに使えるプレゼン資料や映像資料などが公開されています。本事例集の実践事例にもいくつか活用しています。巻末に参考サイトを掲載していますので、児童生徒の実態に合わせて活用しましょ。う。

●情報モラル指導事項表

分類	小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年	
1 情報社会の倫理	発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ			
	a1-1:約束や決まりを守る	a2-1:相手への影響を考えて行動する	a3-1:他人や社会への影響を考えて行動する	
	情報に関する自分や他者の権利を尊重する			
2 法の理解と遵守	情報社会でのルール・マナーを遵守できる			
	c1-1:生活の中でのルールやマナーを守る	c2-1:情報の発信や情報をやりとりする場合のルール・マナーを知り、守る	c3-1:何がルール・マナーに反する行為かを知り、絶対に行わない	
			c3-2:「ルールやきまりを守る」ということの社会的意味を知り、尊重する c3-3: 契約行為の意味を知り、勝手な判断で行わない	
3 安全への知恵	情報社会の危険から身を守るとともに、不適切な情報に対応できる			
	d1-1:大人と一緒に使い、危険に近づかない	d2-1:危険に出合ったときは、大人に意見を求め、適切に対応する	d3-1:予測される危険の内容がわかり、避ける	
	d1-2:不適切な情報に出合わない環境で利用する	d2-2:不適切な情報に出合ったときは、大人に意見を求め、適切に対応する	d3-2:不適切な情報であるものを認識し、対応できる	
	情報を正しく安全に利用することに努める			
	e1-1:知らない人に、連絡先を教えない	e2-1:情報には誤ったものもあることに気づく	e3-1:情報の正確さを判断する方法を知る	
			e2-2:個人の情報は、他人にもらさない	e3-2:自他の個人情報を、第三者にもらさない
	安全や健康を害するような行動を抑制できる			
f1-1:決められた利用の時間や約束を守る	f2-1:健康のために利用時間を決め守る	f3-1:健康を害するような行動を自制する f3-2:人の安全を脅かす行為を行わない		
4 情報セキュリティ	生活の中で必要となる情報セキュリティの基本を知る			
	g2-1:認証の重要性を理解し、正しく利用できる		g3-1:不正使用や不正アクセスされないように利用できる	
	情報セキュリティの確保のために、対策・対応がとれる			
		h3-1:情報の破壊や流出を防ぐ方法を知る		
5 公共的なネットワーク社会の構築	情報社会の一員として、公共的な意識を持つ			
	i2-1:協力し合ってネットワークを使う		i3-1:ネットワークは共用のものであるという意識を持って使う	

※ 文部科学省委託事業により作成した「情報モラル 指導実践キックオフガイド」(社団法人日本教育工学振興会)、「同 解説用資料」(財団法人コンピュータ教育開発センター)、情報モラル教育実践ガイダンス(国立教育政策所)を基に作成

●情報モラル指導事項表

分類	中学校	高等学校
1 情報社会の倫理	情報社会への参画において、責任ある態度で臨み、義務を果たす	
	a a4-1:情報社会における自分の責任や義務について考え、行動する	a5-1:情報社会において、責任ある態度をとり、義務を果たす
	情報に関する自分や他者の権利を理解し、尊重する	
	b b4-1:個人の権利(人格権、肖像権など)を尊重する	b5-1:個人の権利(人格権、肖像権など)を理解し、尊重する
	b4-2:著作権などの知的財産権を尊重する	b5-2:著作権などの知的財産権を理解し、尊重する
2 法の理解と遵守	社会は互いにルール・法律を守ることによって成り立っていることを知る	
	c c4-1:違法な行為とは何かを知り、違法だとわかった行動は絶対に行わない	c5-1:情報に関する法律の内容を積極的に理解し、適切に行動する
	c4-2:情報の保護や取り扱いに関する基本的なルールや法律の内容を知る	c5-2:情報社会の活動に関するルールや法律を理解し、適切に行動する
	c4-3:契約の基本的な考え方を知り、それに伴う責任を理解する。	c5-3:契約の内容を正確に把握し、適切に行動する
3 安全への知恵	危険を予測し被害を予防するとともに、安全に活用する	
	d d4-1:安全性の面から、情報社会の特性を理解する	d5-1:情報社会の特性を意識しながら行動する
	d4-2:トラブルに遭遇したとき、主体的に解決を図る方法を知る	d5-2:トラブルに遭遇したとき、さまざまな方法で解決できる知識と技術を持つ
	情報を正しく安全に活用するための知識や技術を身につける	
	e e4-1:情報の信頼性を吟味できる	e5-1:情報の信頼性を吟味し、適切に対応できる
	e4-2:自他の情報の安全な取り扱いに関して、正しい知識を持って行動できる	e5-2:自他の情報の安全な取り扱いに関して、正しい知識を持って行動できる
	自他の安全や健康を害するような行動を抑制できる	
f f4-1:健康の面に配慮した、情報メディアとの関わり方を意識し、行動できる	f5-1:健康の面に配慮した、情報メディアとの関わり方を意識し、行動できる	
f4-2:自他の安全面に配慮した、情報メディアとの関わり方を意識し、行動できる	f5-2:自他の安全面に配慮した、情報メディアとの関わり方を意識し、行動できる	
4 情報セキュリティ	情報セキュリティに関する基礎的・基本的な知識を身につける	
	g g4-1:情報セキュリティの基礎的な知識を身につける	g5-1:情報セキュリティに関する基本的な知識を身につけ、適切な行動ができる
	情報セキュリティの確保のために、対策・対応がとれる	
	h h4-1:基礎的なセキュリティ対策が立てられる	h5-1:情報セキュリティに関し、事前対策・緊急対応・事後対策ができる
5 公共的なネットワーク社会の構築	情報社会の一員として、公共的な意識を持ち、適切な判断や行動ができる	
	i i4-1:ネットワークの公共性を意識して行動する	i5-1:ネットワークの公共性を維持するために、主体的に行動する

※ 文部科学省委託事業により作成した「情報モラル 指導実践キックオフガイド」(社団法人日本教育工学振興会)、「同 解説用資料」(財団法人コンピュータ教育開発センター)、情報モラル教育実践ガイダンス(国立教育政策所)を基に作成

2 实践事例

小学校

(1) 小学校低学年（道徳）

校種	小学校	学年	低学年	教科等	道徳	キーワード	情報の改ざん
主題名	規則の尊重					指導する時間	1時間
本時のねらい	約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にする。						
使用する資料	けいじばんの らくがき（自作資料）					指導項目 b1-1:人の作ったものを大切に する心をもつ	

小学校第1学年 道徳学習指導案

1 主題名 規則の尊重

- 2 ねらいと資料 ○約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にする。
○「けいじばんの らくがき」（自作資料）

3 主題設定の理由

児童が成長することは、同時に社会や集団の様々な規範を身に付けていくことでもある。低学年の児童は、まだ自己中心性が強く、自分勝手な行動をとることが多い。このことを考慮して、身近な社会生活における出来事なども取り上げながら、約束やきまりをしっかりと守る態度を育てることが大切である。それとともに、公共物や公共の場所に意識を向けて、みんなで使う物など、具体的な物や場所を大切にする態度が育まれるよう指導していきたい。

本資料は、二人の児童が軽い気持ちで、みんなが見る児童会掲示板に落書きをしてしまい、全校児童に迷惑をかけてしまうという内容である。

指導に当たっては、二人の児童の行為からその時の気持ちを考えることを通して、みんなが使う物など、具体的な物や場所を大切にしようとする態度を育てていきたい。

あわせて、みんなが目にする情報は大切なものであり、その情報を改ざんすることや不正情報の流出等のおかしさにも気付かせたい。

4 事前・事後指導及び他の教育活動との関連

小学校学習指導要領 第1章 総則 第4「指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」2（9）において、「各教科等の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、コンピュータで文字を入力するなどの基本的な操作や情報モラルを身に付け、～（以下省略）」と記述されているとおり、情報モラルに関する指導については、道徳の時間だけでなく、他の教育活動との関連を図る必要がある。

5 学習指導過程

	学 習 活 動	主な発問と予想される発言や心の動き	指導上の留意点や支援の観点
導 入	1 校内の掲示板に書いていたり貼っていたりするものを思い出す。	○校内の掲示板にはどんなことが書いていますか。また、何のためにあるのかな。 ・児童会の連絡 ・給食の献立 ・クラスの新聞（ニュース） ・みんなに知ってもらうため	・掲示板は、みんなのためにお知らせするものということを押さえる。
展 開	2 挿絵を見て話し合う。 (1) 落書きをした時 (2) 落書きされた掲示板を見ている2人の女の子の会話を聞いた時 (3) 児童会の上級生の言葉を聞いた時 3 手紙を書く。	○まさしさんの話を聞いたさとるさんはどうして「いいよいいよ。ぼくもてつだうよ。」と言ったのだろう。 ・ちょっといたずらしてみたい ・楽しそう ○らくがきした後、2人の女の子の話を聞いたさとるさんはどんなことを思っただろう。 ・全然気付いてないなあ ・おもしろいなあ。他にもやってみようかな ◎児童会の上級生の言葉を聞いたさとるさんはどんなことを考えただろう。 ・みんなが使うものなのに好きに使ってしまった ・みんながいやな気持ちになった ・みんなが使うものを大切にする ・みんなが気持ちよく使えるようにする ○さとるさんに手紙を書きましょう。	・いけないとわかっているさとるさんの気持ちに気付かせる。 ・いたずらに気付かないことを楽しんでいるさとるさんの気持ちに気付かせる。 ・みんなが使うものをどんな気持ちで使っているのかを考えさせる。 補「落書きはダメ」というきまりは何のためにあるのでしょうか。 ・書いたり発表したりすることで、自分の生活とかかわらせながら価値の自覚を深めさせる。
終 末	4 教師の説話を聞く。		

さとるさんへ おてがみを かきましょう。

名前：

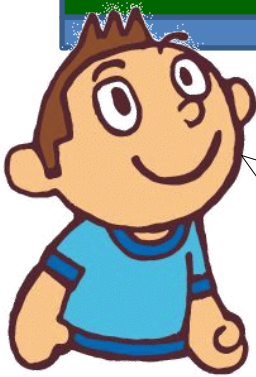


A large rounded rectangular box with a thin black border, containing five horizontal lines for writing. The lines are evenly spaced and extend across most of the width of the box.

ぜんこうの みんなが
もつと なかよく
なるために
おたのしみかいを
けいかくしたいと
おもいます。

クラスから
だいひょういいんを
一めい えらんで
十月一日の
ひる休みに
じどうかいしつへ
あつまってください。

かつお小学校
じどうかい



まさしさん

ちょっとぐらい
かいても いいよね。

いいよいいよ。
ぼくも てつだうよ。

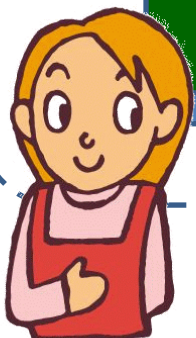
さとるさん



ぜんこうの みんなが
もつと なかよく
なるために
おたのしみかいを
けいかくしたいと
おもいます。

クラスから
だいひょういいんを
二めい えらんで
十月十日の
ひる休みに
じどうかいしつへ
あつまってください。

かつお小学校
じどうかい



クラスで
ふたりを えらぶのね。

10月10日は、
まだまだ 先ね。



ねえ、あのけいじばんのいた
ずらを見た？

なによ、あれ。



そうなんだよ。ひどいよね。
あれを見たら みんな まちがうよね。

これでは、ぼくたちが うそを かい
たと おもわれるよ。



じどう会での話し合い

(2) 小学校中学年（学級活動）

校種	小学校	学年	中学年	教科等	学級活動	キーワード	ネットコミュニケーション
題材名	うまく伝わったかな？					指導する時間	1時間
本時のねらい	相手が見えないコミュニケーション手段の特徴を理解し、相手の立場を考えた行動をとることができる。						
使用する資料	「適切なコミュニケーション」 出典：文部科学省 情報化社会の新たな問題を考えるための教材～安全なインターネットの使い方を考える～ 動画教材 http://jouhouka.mext.go.jp/information_moral_manual.html					指導項目	
						c2-1：情報の発信や情報をやりとりする場合のルール・マナーを知り、守る	

小学校第4学年 学級活動指導案

1 題材 「うまく伝わったかな？」

内容（2）ウ 望ましい人間関係の形成

2 題材設定の理由

本題材は、学級活動の共通事項（2）ウ 望ましい人間関係の形成の内容として、インターネット上のコミュニケーションの事例をもとに、望ましい人間関係を構築するためのコミュニケーションのあり方について考えさせることをねらいとしている。

中学年になると、交友関係も広がり、友達との関わりも多くなる。関わりが増えることで、友達との間で相手を傷つける心ない一言を言ってしまい、そのことが継続したトラブルにつながり、人間関係を損なうこともある。

特に、インターネットを介して相手が見えない状況での文字情報のやり取りでは、真意が伝わらなかったり、誤解を招いたりすることがある。多くの児童が所持するゲーム機を使ってのコミュニケーションは、思ったことを正確に伝えることが難しく、誤解を招くことが多い。

本題材を通して、相手が見えない状況でのコミュニケーションにおいては、トラブルが起きうる可能性があることを理解して生活していく必要があることを実感し、実践に生かせるようにしていきたい。

3 指導のねらい

インターネット上のコミュニケーションの事例をもとに、望ましい人間関係を構築するためのコミュニケーションのあり方について考える。

4 評価規準【学級活動（2）の評価規準】

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自己の生活上の問題に関心をもち、意欲的に日常生活や学習に取り組もうとしている。	楽しい学級生活をつくるために、日常生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	楽しい学級生活をつくることの大切さ、そのためのよりよい生活や学習の仕方などについて理解している。

5 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
ネットゲームについてのアンケート調査に答え、自分の課題について考えておく。	学級の児童の問題の状況を調査等により確認し、家庭へアンケート実施のお知らせ、調査結果をもとに家庭で話し合いをもってもらうこと等を依頼しておく。	【関心・意欲・態度】 コミュニケーションの課題について、真剣に受け止めている。 (アンケート調査)

6 本時のねらい

相手が見えないコミュニケーション手段の特徴を理解し、相手の立場を考えた行動をとることができる。

7 本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と 評価方法
導入	1 ネットゲームについてのアンケート結果を見る。 ・ゲームをしている時間・時間帯 ・どんなゲームをしているか ・誰としているか 等	・学級の児童のネットゲームの実態を押さえる。	
	2 動画（導入編）を視聴し、誤解が生じていることに気付く。	・解説動画は見せずに、問題提起の部分のみ視聴する。	
展開	3 どうして誤解が生じたのか、話し合う。 ・相手の気持ちが分かりにくいから。 ・表情がないと気持ちが分からないから。 ・お互いの気持ちを考えようとしなかったから。	・ワークシートに書かせる。 ・お互いが不安感をもっていることを理解させる。	
	4 みんなで話し合い、相手が見えないコミュニケーションの場合、どうしたら誤解が生じないか考える。 ・相手の気持ちを考える。	・相手を思いやることが重要であることを理解させる。	

	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉を足さないと思いが伝わらない。 ・相手がどう受け止めるか考えてメッセージを送る。 		
終末	<p>5 自分の課題に合った『努力すべきこと』を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に会ったときのコミュニケーションを大切に、互いの気持ちを考える。 ・相手のことを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の課題を確認できるようにし、何をどのように努力したらよいかを考えて、より具体的な自己決定ができるようにする。 ・自分の努力すべきことを頑張りカードに書かせる。 	<p>【思考・判断・実践】 よりよいコミュニケーションのあり方について、<u>どのように生活に生かしていきたいか具体的なめあてを考え、進んで実践している。</u>（頑張りカード・観察）</p>

8 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
自己決定しためあてや取組を振り返る。	自己決定したことを継続するため、頑張りカードにより、定期的に自己評価をさせたり、相互評価をさせたりし、励まし合って取り組ませる。	<p>【思考・判断・実践】 よりよいコミュニケーションのあり方について、<u>どのように生活に生かしていきたいか具体的なめあてを考え、進んで実践している。</u>（頑張りカード・観察）</p>

9 準備物 ワークシート、頑張りカード

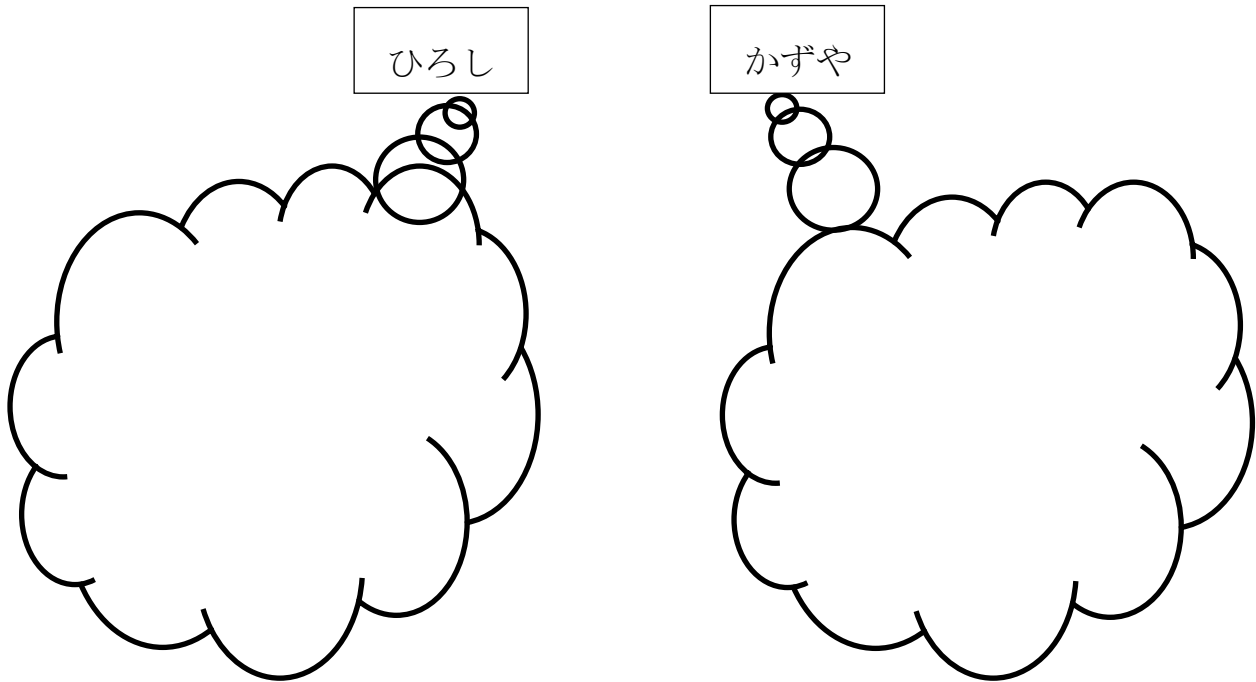
10 備考 動画アドレス

https://www.youtube.com/watch?v=IZJIRDCeaSg&index=29&list=PLGpGsGZ3lmbA0d2f-4u_Mx-BCn13GywdI

／ 年 組 名前 []

うまく伝わったかな？

二人の心の中を考えてみよう。



どうしてすれちがいが生まれたのだろう？

A large empty rectangular box for writing an answer to the question above.

友達とコミュニケーションをとるとき、どんなことに気をつけるとよいでしょう？

A large empty rectangular box with a double-line border for writing an answer to the question above.

がんばりカード

名前： _____

友達とコミュニケーションをとるとき、どんなことに気がつけるとよいでしょう？

※ めあてが守れた日は○、守れなかった日は×をつけましょう。

() 月

日	日	日	日	日	日	日

《振り返ってみよう》

☆お家の方よい☆

=先生から=



(3) 小学校高学年（学級活動）

校種	小学校	学年	高学年	教科等	学級活動	キーワード	ネット被害 保護者啓発
題材名	自分が被害に遭う問題					指導する時間	1時間
本時のねらい	インターネット上には、無料を装って個人情報を取得するサイトやアプリが存在することを理解するとともに、危険を回避し、安全に賢くインターネットを利用する態度を育てる。						
使用する資料	「個人情報を守るのは自分だよ」 出典：文部科学省 情報化社会の新たな問題を考えるための教材～安全なインターネットの使い方を考える～ 動画教材 http://jouhouka.mext.go.jp/information_moral_manual.html					指導項目	
						c3-1:何がルール・マナーに反する行為かを知り、絶対に行わない	

小学校第5学年 学級活動指導案

- 1 題材 「自分が被害に遭う問題」
内容 (2)カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

2 題材設定の理由

本題材は、学級活動の共通事項(2)カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成の内容として、児童のインターネット利用の現状から、日常生活を安全に保つために、進んできまりを守り、危険を回避し、安全に行動できる能力や態度を育てることをねらいとしている。

近年、情報通信ネットワークが急速に進展し、日常生活においてもインターネットや携帯電話等によって、ライフスタイルやコミュニケーションなどが大きく変化している。それに伴い、子どもが事件を起こしたり、巻き込まれたりする事例が増加してきた。そのような中で、子どもたちに危険回避など情報を正しく安全に利用するための情報モラルを身に付けさせ、情報手段を賢く使おうとする態度を育てることが大切である。

具体的には、インターネット利用についてのアンケートを実施し、互いの経験を共有させるとともに、トラブルに遭わないようにするための行動や、トラブルに遭ってしまったときの対処について考えさせることで、インターネットを安全に使うためのルールをつくり、日常生活で実践できるようにしていきたい。また、保護者参加の授業形態で行うことにより、家庭でのルールづくりや点検活動にもつなげていきたい。

3 指導のねらい

児童のインターネット利用の現状から、日常生活を安全に保つために、進んできまりを守り、危険を回避し、安全に行動できる能力や態度を育てる。

4 評価規準【学級活動（2）の評価規準】

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自己の生活の充実と向上にかかわる問題に関心をもち、自主的に日常生活や学習に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、日常生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの大切さ、そのための健全な生活や自主的な学習の仕方などについて理解している。

5 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
ネットゲームについてのアンケート調査に答え、自分の課題について考えておく。	学級の児童の問題の状況を調査等により確認し、家庭へアンケート実施のお知らせや参観日での授業への参加等を依頼しておく。	【関心・意欲・態度】 インターネット利用の課題について、真剣に受け止めている。（アンケート調査）

6 本時のねらい

インターネット上には、無料を装って個人情報を取得するサイトやアプリが存在することを理解するとともに、危険を回避し、安全に賢くインターネットを利用する態度を育てる。

7 本時の展開 ●保護者も参加する場面

	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と 評価方法
導入	1 アンケートの結果から、インターネット利用の実態を共有する。 ・情報検索 ・ゲーム ・メール ・SNS ・LINE	・アンケート結果をグラフ化するなど、視覚的に訴える。 ・インターネットの長所を取り上げ、便利な道具であることを再認識する。	
	2 動画（導入編）を視聴し、トラブルが生じていることに気付く。		
展開	3 トラブルが起きた問題点について話し合う。 (1) あかねさんとしょうたさんに共通する問題点と、感じたことについて話し合う。 (2) どうしてトラブルが生じたのか、話し合う。	・「無料」という言葉について考えさせる。 ・ワークシートに書かせる。	

	<p>4 トラブルへの対処法と予防法について、児童グループ、保護者グループそれぞれで話し合う。●</p> <p>(1) トラブルに巻き込まれないためにどうしたらよいですか？</p> <p>(2) もしトラブルに巻き込まれたらどうしますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・保護者それぞれの意見を整理しながらまとめる。 ・最後に解説動画を見せる。 	
終末	<p>5 インターネットを利用する際の自分の課題にあった『努力すべきこと』を決め、発表しあう。</p> <p>※保護者には、「お子さんが困った時にできること」を書いてもらう。●</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で判断することの重要性を、児童に意識付ける。 ・困った時は、身近な人に相談することの大切さも盛り込む。 ・点検カードに書くことで、自分のめあてを意識させる。 	<p>【思考・判断・実践】</p> <p>安全なインターネット利用について、<u>日常的にどんなことに気を付ければよいか具体的なめあてを考え、進んで実践している。</u>（観察・点検カード）</p>

8 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
自分の立てためあてや取組などについて振り返る。	インターネット利用のルールの順守について、家庭でも保護者に声がけをしてもらい、定期的に点検するように助言する。	<p>【思考・判断・実践】</p> <p>安全なインターネット利用について、<u>日常的にどんなことに気を付ければよいか具体的なルールを考え、進んで実践している。</u>（観察・点検カード）</p>

8 準備物 ワークシート、点検カード

9 備考 動画アドレス

https://www.youtube.com/watch?v=aVo4PXjRUs4&list=PLGpGsGZ3lmbA0d2f-4u_Mx-BCn13GywDI&index=9

https://www.youtube.com/watch?v=C5wmCemLp3s&index=10&list=PLGpGsGZ3lmbA0d2f-4u_Mx-BCn13GywDI

インターネットの利用についてのアンケート

1. あなたは、学校での学習以外で、インターネットを使ったことがありますか。

- 1 はい 2 いいえ

2. 「はい」と答えた人は、どのような機器を通じて、インターネットに接続しましたか。
(複数回答可)

- 1 パソコン 2 携帯電話・スマートフォン 3 携帯音楽プレイヤー

- 4 ゲーム機 (携帯ゲーム機を含む) 5 その他 ()

3. 「はい」と答えた人は、一日におよそどのくらいインターネットを使いますか。

- 1 30分まで 2 30分から1時間まで 3 1時間から2時間まで

- 4 2時間から3時間まで 5 3時間以上

4. 「はい」と答えた人は、インターネットに接続しておもにどんなことをしますか。
(複数回答可)

- 1 情報検索 2 ゲーム 3 メール 4 LINE

- 5 SNS 6 その他 ()

5. 4で答えたようなことをしていて、知らない人から突然連絡が来たり、お金を支払うようなメールが来たりしたことがありますか。

- 1 ある 2 ない

／ 年 組 名前〔 〕

どうして自分が被害にあうの？

あかねさんとしょうたさん、二人に共通する問題点は何でしょうか？

また、そのことについて、あなたはどんなふうに感じましたか？

○共通する問題点

○感想

どうしてトラブルが起こったのだろう？

インターネットを利用するときに、気をつけたいことを書いてみましょう。

がんばりカード

名前： _____

☆インターネットを利用するときの自分のめあて！

※ めあてが守れた日は○、守れなかった日は×をつけましょう。

() 月

日	日	日	日	日	日	日

《振り返ってみよう》

☆お家の方よい☆

=先生から=



(4) 小学校高学年（道徳）

校種	小学校	学年	高学年	教科等	道徳	キーワード	ネットいじめ
主題名	公正、公平、社会正義					指導する時間	1時間
本時のねらい	誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努める。						
使用する資料	「友だちへのネットいじめ」 出典：一般財団法人コンピュータ教育推進センター（CEC） ネット社会の歩き方 http://www.cec.or.jp/net-walk/					指導項目	
						a3-1:他人や社会への影響を 考えて行動する	

小学校第6学年 道徳学習指導案

1 主題名 公正、公平、社会正義

2 ねらいと資料 ○誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努める。

○「友だちへのネットいじめ」

出典：一般財団法人コンピュータ教育推進センター ネット社会の歩き方

<http://www.cec.or.jp/net-walk/>

3 主題設定の理由

社会正義は、社会的な認識能力と人間の平等観に基づく人間愛が基本にならなければならない。公正、公平にすることは、私心にとらわれずだれにも分け隔てなく接し、偏ったものの見方や考え方を避け、社会的な平等が図られるように振る舞うことである。しかし、このような社会正義の実現を妨げるものに人々の差別や偏見がある。よりよい社会を実現するためには正義を愛する心が不可欠であり、自他の不正や不公平を許さない断固とした姿勢をもち、力を合わせて積極的に差別や偏見をなくそうとする努力が重要である。

この段階においては、いじめなどの身近な差別や偏見に気付き、公正で公平な態度を養うことを通して、不正な行為を絶対に許さないという断固たる態度を育てることが大切である。また、社会的な差別や不公正さなどの問題について考え、社会正義についての自覚を深めていく指導を適切に行うことが大切である。

本資料は、インターネットの投稿サイトを中心に描かれている内容である。ある日、主人公コウタが同じ部活の友人から URL の書かれたメモを渡され、ケータイで開いてみると、掲示板に小学校のと同じクラスだったシュンの悪口が書かれていた。後日、シュンが掲示板で自分への悪口に反論したところ、さらにひどい悪口が書きこまれ、それ以来、シュンは学校に姿を見せなくなった。そこで、コウタが掲示板にシュンを擁護する記事を投稿しようとするが、シュンを擁護する書き込みに対して多くの悪口が書きこまれているのを目にし、迷ってしまうというものである。

指導に当たっては、コウタがなぜ迷っているのか葛藤する理由と併せ、差別や偏見のない公正、公平な社会をつくるために、どのような見方や考え方が大切なのかについて話し合うことを通して、掲示板に書かれた悪口に対して、「見て見ぬふりをする」とか、「避けて通る」という消極的な立場で

はなく、不正を憎み、不正な言動を許さない断固とした姿勢をもち、正義の実現に積極的に努めようとする態度を育てていくようにしたい。

併せて、掲示板のもつ社会的影響力の大きさや一度発信された情報は二度と回収したり取りもどしたりできないという情報社会の特性にも気付かせたい。

4 事前・事後指導及び他の教育活動との関連

小学校学習指導要領 第1章 総則 第4「指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」2(9)において、「各教科等の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、コンピュータで文字を入力するなどの基本的な操作や情報モラルを身に付け、～(以下省略)」と記述されているとおり、情報モラルに関する指導については、道徳の時間だけでなく、他の教育活動との関連を図る必要がある。

5 学習指導過程

	学 習 活 動	主な発問と予想される発言や心の動き	指導上の留意点や支援の観点
導 入	1 児童のネット利用の経験について話し合う。	○皆さんのインターネット利用について、事前にアンケートをとりました。その結果を発表します。 ・携帯電話やスマートフォン等の所持率 ・利用時に気を付けていること ・トラブルに巻き込まれた有無とその内容	・児童のネット利用の実態について、事前にアンケート調査を行い、集計結果を提示する。
展 開	2 デジタルコンテンツ「友だちへのネットいじめ」を視聴し、話し合う。	○ネット上の掲示板にシュンさんの悪口が書かれているのを見て、コウタさんはどう思ったでしょう。 ・ひどいなあ ・どうしてこんなことをするのか ・シュンさんがかわいそう ・だれが書いたのだろう ○シュンさんの「こんな書き込みは削除してほしい！」との書き込みに対して、シュンさんに対する悪口がますますひどくなっているのを見て、コウタさんはどんなことを考えたでしょう。 ・許せない ・こんなことをするのはひきょうだ ・勇気を出して書き込んだのにひどい ・ぼくが何とかしなければ	・コウタさんが不正な行為に対して許せない思いを抱いていることに共感させる。

<p>展 開</p>	<p>○今日の授業を通して考えたことを書き、話し合う。</p>	<p>◎コウタさんは「こんな書き込みはいい加減にやめろよ。シュンさんが傷ついてそんなにおもしろいか。」と掲示板に書き、投稿するかどうか迷っています。コウタさんが掲示板に投稿するのを迷っているのはなぜでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・投稿すれば自分の悪口が書き込まれるかもしれない ・投稿しても悪口がなくなるとは限らない ・シュンさんが傷ついているのを見えぬふりはできない ・ネットいじめを絶対に許してはいけない ・ネット上に悪口を書かれ苦しんでいるシュンさんのことを学級の問題として取り上げる ・先生に相談する <p>○自分たちの身の回りでも起こりうるネットいじめについて、このようなことが起こらないようにするために大切なことを考えてみましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コウタさんが迷っている思いに共感させる。 ・公平、公正な社会をつくるために、どのようなことが大切かについて話し合う。 補 差別や偏見のない公正、公平な社会をつくるためには、どのような見方や考え方が大切でしょう。 ・自分の考えを書き、発表することで、ねらいとする価値への自覚を促す。
<p>終 末</p>	<p>3 私たちの道徳（小学校5・6年）P.184～187を読む。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ネットいじめについて、その不正を許さないために大切にしたい思いを高められるようにする。

携帯電話・スマートフォンについてのアンケート

1. あなたは、携帯電話やスマートフォンを持っていますか。

- 1 携帯電話のみ 2 スマートフォンのみ 3 両方
4 どちらも持っていない

2. 1～3と答えた人は、主にどのように使っていますか。(3つまで回答可)

- 1 通話 2 メール 3 ブログ・ブログ 4 掲示板・チャット
5 LINE 6 ゲーム 7 SNS 8 写真や動画を撮る
9 音楽を聴く 10 ネットショッピング・オークション
11 その他 ()

3. 携帯電話やスマートフォンを使っていて、いやな思いをしたり、困ったりしたことはありますか。

- 1 ある 2 ない

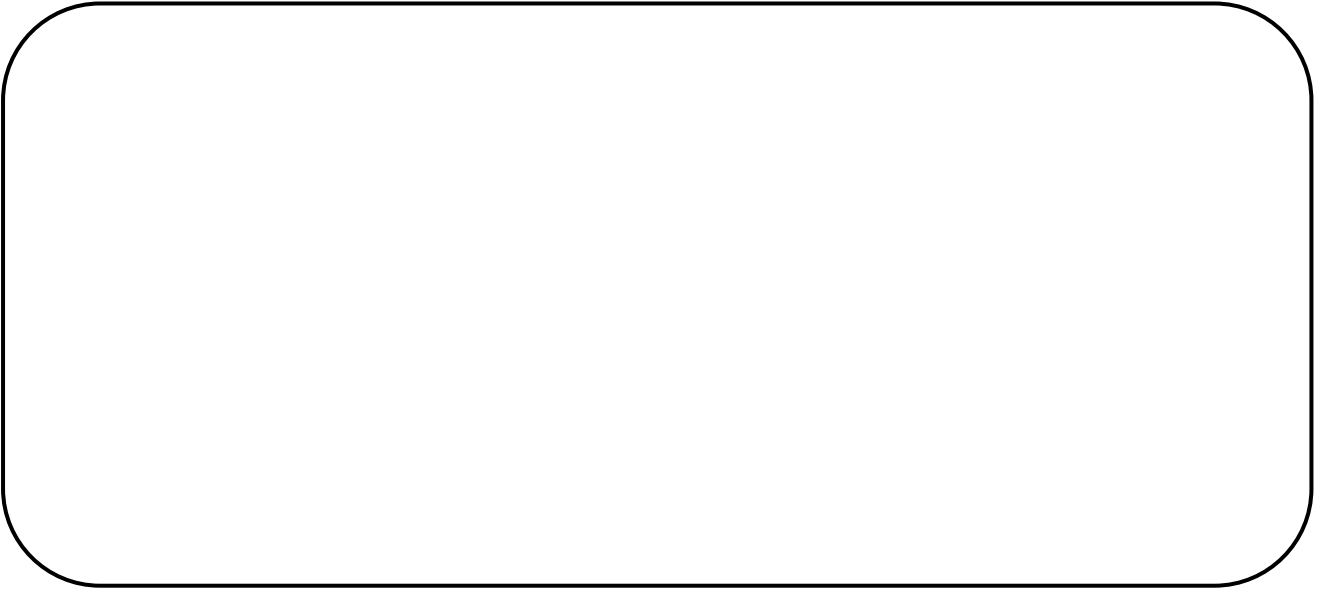
それはどんなことですか。

{ }

その時、だれかに相談しましたか。

{ }

■コウタは「こんな書き込みはいい加減にやめろよ。シュンが傷ついてそんなにおもしろいか。」と掲示板に書き、投稿するかどうか迷っています。コウタが掲示板に投稿するのを迷っているのはなぜでしょう。



■あなたは、ネットいじめが起こらないようにするために、インターネットを使う時、どのようなことに気を付けようと思いますか。



2 实践事例

中学校

(5) 中学校（技術・家庭科：技術分野）

校種	中学校	学年	第1学年	教科等	技術・家庭科 (技術分野)	キーワード	ルールづくり
題材名	「我が家のスマホ等の情報端末使用のルール5カ条づくり」 ※ D(1)ア、イ、ウ、(2)ア、イ				指導する時間	全9時間	
本時のねらい	スマホ等の情報端末を使用する際のルールを考える。						
使用する資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニホワイトボード ・前時に作成した情報モラルクイズ ・ワークシート 				指導項目		
					f4-2:自他の安全面に配慮した、情報メディアとのかかわり方を意識し、行動できる		

中学校第1学年 技術・家庭科（技術分野）学習指導案

1 題材名

「我が家のスマホ等の情報端末使用のルール5カ条づくり」

2 題材について

情報端末が生活の必需品となっている現在の社会においては、子どもが被害者にも加害者にもならないために、インターネット上でのルールやきまりなど、情報モラルに関する知識や技能を身に付けることが必要不可欠である。そのため、本題材では、まずコンピュータにおける基本的な情報処理の仕組みや、情報通信ネットワークにおける基本的な情報利用の仕組みを知る。そのうえで、手のひらサイズのパソコンともいえる、スマホ等の利用時の問題点を考えることで、情報社会の問題点等を自らの課題として捉えさせる。併せて、スマホ等の使用時のルールを考えることを通じて、情報社会において適正に活動する能力と態度を育成することを目的としている。

本時では、参観日等に授業を行うことにより、保護者への啓発活動の意味合いも兼ねて、生徒の考えた情報モラルに関するクイズに保護者が回答したり、スマホ等の情報端末を使用する際のルールを保護者も交えて検討したりする活動を通じて、子どもと保護者の情報端末の利用実態に関する認識の差や、規範意識等の差について理解するとともに、実効的なルールづくりを行う計画となっている。

本題材におけるねらいを達成するためには、まず、生徒自身に、情報端末を使用する際の課題意識をしっかりとめさせることが重要であるため、本時の授業に至るまでの過程が重要な役割をもつ。そのため、4時間目では、ワークショップ形式を用いる等、話し合いの方法を工夫することで、生徒同士の主体的な活動や話し合いを促し、情報技術の発展による課題を明らかにしたい。また、5～7時間目ではクイズを作成する過程を通じて、根拠資料等を収集することで、実体験や伝聞情報のみならず、例えば著作権に関する正しい知識を得たり、社会で発生している事件や事故等について広く知ったりすることなど、生徒自身の課題意識を深める時間としたい。

なお、本来、情報端末の使い方は人によって異なるため、守るべきルールも人によって異なることは必然である。したがって、生徒自身が、自分の生活スタイルや使用条件等に合わせて、適切なルールを設定していく力を育成することを目的として、本時の展開では、自分の家庭でのルールづくりを行うこ

ととしている。

また、今回は、技術分野における授業プランを提示しているが、本時の内容を、クラスのルールづくりに変更し、学級活動で実施することも考えられる。その場合は、学級活動(2)ウ 社会の一員としての自覚と責任や、(2)オ 望ましい人間関係の確立などの題材として設定し、ルール策定後に、学級通信等でお知らせするなどの家庭への啓発活動を行うことや、一過性の取組にしないために、学級活動等の時間を利用して、ルールの点検活動などの振り返りを定期的に行うこと等も有効であると考えられる。

3 題材の目標

- ・コンピュータにおける基本的な情報処理の仕組みと、情報通信ネットワークにおける安全な情報利用の仕組みについて知ることができる。
- ・情報社会の問題点等に関心を持ち、情報社会において適正に活動することができる。
- ・デジタル作品の設計・制作を通して、メディアの特徴と利用方法を知り、多様なメディアを複合し、表現や発信ができるとともに、目的に応じてデジタル作品の設計を工夫することができる。

4 題材の評価規準

生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい社会を築くため、情報社会において適正に活動しようとしている。 ・情報に関する技術にかかわる倫理観を身に付け、知的財産を創造・活用しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報に関する技術の利用場面に応じて、適正に活動している。 ・使用目的や使用条件に即してデジタル作品の設計を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様なメディアを複合し、表現や発信ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータにおける基本的な情報処理の仕組みと情報通信ネットワークにおける安全な情報利用の仕組みについての知識を身に付けている。 ・メディアの特徴と利用方法についての知識を身に付けている。

5 指導と評価の計画 (全9時間)

時間	学習活動	評価規準			
		関心・意欲・態度	工夫・創造	技能	知識・理解
1～2	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの構成や情報処理の仕組みを調べる。 ・デジタル化の方法と情報の量の関係について調べる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータを構成する主要な装置と、基本的な情報処理の仕組み、情報のデジタル化の方法と情報量との関係についての知識を身に付けている。

3	情報通信ネットワークの構成と、安全に情報を利用するための基本的な仕組みを調べる。				インターネットなどの情報通信ネットワークの構成と、安全に利用するための基本的な知識を身に付けている。
4	スマホ等の情報端末を使用する際に問題となる事柄について話し合う。	情報技術が生活の向上や産業の継承と発展に果たしている役割と、著作権や人権侵害など、情報技術の発展による悪影響について関心をもっている。			
5～7	話し合った事柄の根拠となる資料を収集するとともに、プレゼンテーションソフトを利用して、情報端末を使用する際に注意すべき事柄についてのクイズを作成する。	クラスメイトや参観日に来校する保護者等、回答者に対し、わかりやすいプレゼンテーションを設計・制作しようとしている。	クラスメイトや参観日に来校する保護者等、回答者に対し、わかりやすいプレゼンテーションを設計・制作している。	設計に基づき、適切なソフトウェアを用いて多様なメディアを複合し、表現や発信ができる。	メディアの素材の特徴と利用方法や、多様なメディアを複合する方法についての知識を身に付けている。
8	作成したクイズを発表することを通して、情報に関する技術の利用場面に応じて適正に活動することについて考える。				著作権や人権侵害など、情報の発信に伴って発生する可能性のある問題と、発信者としての責任についての知識を身に付けている。
9 (本時)	我が家のスマホ等の情報端末使用のルール5カ条を作成する。	情報社会において適正に活動しようとしている。	情報に関する技術の利用場面に応じて、適正に活動している。		

6 本時の指導（第9時）

(1) 本時の目標

- ・ スマホ等の情報端末を使用する際のルールを考える。

(2) 本時の評価規準

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
情報社会において適 正に活動しようとして いる。	情報に関する技術の 利用場面に応じて、適正 に活動している。		

(3) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時に各グループがプレゼンテーションソフトで作成した情報モラルに関するクイズを保護者に出題する。【全体活動】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者に回答してもらうことで、親子間の情報モラルや使用実態等の把握に大きな差があることを生徒に理解させる。 	
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者に感想を聞く。 ・ スマホ等の情報端末を使用する際のルールを作成する。 ・ 各グループから、各自が決定したルールのうち、クラスに紹介したいルールとその理由を発表し、学級全体で共有する。 ・ 学級全体で共有したルールを基に、自分の作成したルールを再検討し、「我が家のスマホ等の情報端末使用時のルール5カ条」として定める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スマホ等の情報端末を使用する際は、利便性だけでなく加害者や被害者になる危険性もあることを再認識させる ・ スマホ等の情報端末使用時のルールを各自で検討させ、その後、グループで、さらによいルールがないかアイデアを出させる。 ・ 保護者も数名のグループで作成してもらう。 ・ 保護者も作成したルールを発表してもらう。 ・ 自分だけのルールでなく、家族も含めて安心、安全にスマホ等の情報端末を使用するためのルールを選ぶようにさせる。 	<p>情報に関する技術の利用場面に 応じて、適正に 活動している。 【工夫・創造】 (ワークシート・ホワイトボード・観察)</p>

ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに、ルール5カ条を記入するとともに、本時に学んだことや今後の生活で生かしたいことなどを記入する。 ・感想等を発表し、全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者にもワークシートに記入してもらおう。 ・数名の生徒に感想等を発表させ、本時の振り返りを行う。 	<p>情報社会において適正に活動しようとしている。【関心・意欲・態度】(ワークシート)</p>
-------------	--	---	---

学習日 年 月 日 ()

年 組 名前 ()

「我が家のスマホ等の情報端末使用のルール5カ条づくり」

- スマホ等の情報端末を使用する際のルールを考えてみよう！

こんなルールが必要だ！

ルール	必要な理由

- 各グループから紹介されたルールのうち、参考にしたいルールを記入しよう！

参考にしたいルールはこれだ！

参考にしたいルール	

○ 「我が家のスマホ等の情報端末使用のルール5カ条」を決定しよう！

我が家のルールはこれだ！

	ルール	必要な理由
その1		
その2		
その3		
その4		
その5		

ルールに対する家庭からのコメント

○ 今日の学習で学んだことや、今後の生活で生かしたいことを記入しよう！

(6) 中学校（保健体育：保健分野）

校種	中学校	学年	第3学年	教科等	保健体育 (保健分野)	キーワード	ネットと健康
単元名	健康な生活と疾病の予防				指導する時間	全6時間	
本時のねらい	健康な生活や疾病の予防をするためのネット環境について、学習したことを自分たちの生活や事例と比較したり、関係を見付けたりするなどして筋道を立てて考えるとともに、自分自身の生活を見直すことができる。						
使用する資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート「事例ABC」 ・学習カード 				指導項目		
					f4-1：健康面に配慮した、情報メディアとのかかわり方を意識し、行動できる		

中学校第3学年 保健体育科（保健）学習指導案

- 1 単元名 健康な生活と疾病の予防
- 2 小単元名 生活行動・生活習慣と健康
- 3 単元について

○ 単元観

本単元は、中学校学習指導要領の第3学年の内容「(4)健康な生活と疾病の予防」に基づいて設定されたものである。

健康の大切さや健康によい生活、病気の起こり方や予防については、小学校体育科保健領域で学習している。それらを踏まえて、ここでは、人間の健康は主体の要因と環境がかかわりあって成り立つこと、健康を保持増進し、疾病を予防するためには、それに関わる要因に対する適切な対策があることについて理解できるようにする必要がある。

本単元では、健康を保持増進し、疾病を予防するためには、年齢や生活環境に応じて、調和のとれた食事、適切な運動、休養及び睡眠が必要であることについて理解させることにより、これからの社会生活を生きる生徒が、生涯を通じて健康で活力ある生活を送るための基礎を学ぶ大切な単元となる。

○ 指導観

指導に当たっては、食生活、運動、休養及び休息をそれぞれ取り上げ、健康にとって必要な要因であることを理解するとともに、健康な生活や疾病を予防するための方法について考える。

また、現代社会の問題点として挙げられている「ネット問題」を発展的に取り上げ、不適切な生活習慣につながる要因となることを理解するとともに、健康的な生活習慣を維持するために、自分自身のネットとの付き合い方について考える。

次に、不適切な生活習慣によって起きる様々な病気について取り上げ、生活習慣と生活習慣病の密接な関係を理解し、予防のための方法を考える。

4 単元の目標

- 生活行動・生活習慣と健康について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする。【関心・意欲・態度】
- 生活行動・生活習慣と健康について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。【思考・判断】
- 生活行動・生活習慣と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活との関わりを理解することができるようにする。【知識・理解】

5 単元の評価規準

1 健康・安全への 関心・意欲・態度	2 健康・安全についての 思考・判断	3 健康・安全についての 知識・理解
<p>①健康な生活と疾病の予防について、健康に関する資料を見たり、自分たちで生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>②健康な生活と疾病の予防について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習に意欲的に取り組もうとしている。</p>	<p>①健康な生活と疾病の予防について、健康に関する資料等で調べたことを基に課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。</p> <p>②健康な生活と疾病の予防について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。</p>	<p>①健康な生活や疾病の予防をするための食生活について理解したことを言ったり、書き出したりしている。</p> <p>②健康な生活や疾病の予防をするための運動について理解したことを言ったり、書き出したりしている。</p> <p>③健康な生活や疾病の予防をするための休養や睡眠について理解したことを言ったり、書き出したりしている。</p> <p>④健康な生活や疾病の予防をするためのネット環境について理解したことを言ったり、書き出したりしている。</p> <p>⑤生活習慣病の概念について理解し、予防方法を身に付ける必要があることについて言ったり、書き出したりしている。</p>

6 指導と評価の計画（全6時間）

時	学習内容	評価				
		関	思	知	評価規準	評価方法
1	<p>食生活と健康</p> <p>1. 生きていくために必要な栄養をバランスのとれた食事からとることを知る。</p> <p>2. 自分の食生活の問題点を見付け、改善する方法を考える。</p>	○		○	1-① 3-①	<p>行動観察</p> <p>発言</p> <p>学習カード</p>
2	<p>運動と健康</p> <p>1. 健康によい適度な運動を日常生活の中に取り入れることは、発育を促すことを知る。</p> <p>2. 健康によい適度な運動は、生活習慣病や肥満の予防に役立つことを知る。</p> <p>3. 生涯を通じた健康の保持増進のための運動について考える。</p>		○	○	2-① 3-②	<p>行動観察</p> <p>発言</p> <p>学習カード</p>
3	<p>休養及び睡眠と健康</p> <p>1. 疲労を感じた時の自覚症状を例として、身体的疲労と肉体的疲労それぞれに適した疲労回復の方法を考える。</p> <p>2. 自分自身の生活の仕方を振り返り、休養や睡眠の取り方について考える。</p>		○	○	2-② 3-③	<p>行動観察</p> <p>発言</p> <p>学習カード</p>
④ 本 時	<p>ネット環境と健康</p> <p>1. ネット利用について、不適切な使用方法による健康への害について考える。</p> <p>2. 自分自身の生活の仕方を振り返り、ネットとの付き合い方について考える。</p>		○	○	2-① 3-④	<p>行動観察</p> <p>発言</p> <p>学習カード</p>
5	<p>調和のとれた生活と生活習慣病①</p> <p>1. 高血圧や心臓病、脳卒中などの循環器系疾患、糖尿病、がんについてどのような病気なのか知る。</p> <p>2. 生活習慣によって起きる様々な病気について考える。</p>	○		○	1-② 3-⑤	<p>行動観察</p> <p>発言</p> <p>学習カード</p>
6	<p>調和のとれた生活と生活習慣病②</p> <p>1. やせと肥満と、生活習慣病との関連について知る。</p> <p>2. 生活習慣と生活習慣病の密接な関係を知り、予防のための方法を考える。</p>		○	○	2-② 3-⑤	<p>行動観察</p> <p>発言</p> <p>学習カード</p>

7 本時の展開

(1) 本時の目標

- 健康な生活や疾病の予防をするためのネット環境について、学習したことを自分たちの生活や事例と比較したり、関係を見付けたりするなどして筋道を立ててそれらを説明することができるようにする。(思考・判断)

- ・健康な生活や疾病の予防をするためのネット環境について理解したことを言ったり、書き出したりすることができるようにする。(知識・理解)

(2) 準備物

- ・付箋
- ・模造紙
- ・資料「事例ABC」
- ・学習カード

(3) 学習の展開

	学 習 活 動	○指導上の留意点 ◆評価
導 入	<p>1. ネット環境と利便性について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ネットにつながる機器として身近にあるものには、どのようなものがあるでしょうか。</p> </div> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話 (スマートフォン・ガラケー等) ・パソコン ・携帯ゲーム <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>これらの機器はどんなところが便利なのでしょう。</p> </div> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこでも、いつでもネットにつながる。 ・知りたいときにすぐに調べることができる。 ・たくさんの友達と連絡することができる。 <p>2. 学習のねらいを知る。</p> <div style="border: 3px double black; padding: 5px;"> <p>ネット環境は様々な利点がある反面、使い方によっては健康に悪影響を与えることがあります。ネットとどのようにつきあうことが大切なのか考えてみよう。</p> </div>	<p>○普段自分たちの生活の中にあるものを思い出させる。</p> <p>○普段自分たちが感じている利便性を出させる。</p> <p>○ネットの普及によって、世界が身近になったことも伝える。</p>
展 開	<p>3. ネット利用による健康への悪影響について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「ネットがおよぼす健康への害」について、グループ内でお互いに意見を出し合ってみよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ブレインストーミングをする。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 各自の考えを付箋に書く。 2) グループごとに模造紙に整理する。 3) 学級の意見を黒板に整理する。 <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠時間が少なくなる。 ・目が悪くなる。 ・精神的にしんどくなる。 ・依存的になり、やらないと落ち着かない。 	<p>○似たような意見は分類して、出された意見を整理する。</p> <p>○ネットを使うことによって減った時間を示した資料などを活用し、理解を深められるようにする。</p> <p>○書き込みによる誹謗・中傷など、人権問題につながることも触れるようにする。</p> <p>○ネット依存などの問題を抱える人たちが増えてきていることを伝える。</p>

	<p>ネットについては便利な半面、長時間の使用により睡眠時間が少なくなったり、依存傾向が強くなり心身の弊害につながったりするなど、健康を害することがある。</p> <p>4. これからの生活の中で、ネット環境とのよいつき合い方について考える。</p> <p>次に示す事例Aさん、Bさん、Cさんに対して、健康な生活のためのネットとの付き合い方についてグループで話し合ってみよう。</p> <p>・グループでの話し合いの進め方</p> <p>①A～Cさんのうち、誰にアドバイスを するか決める。その際、全員が一人以上 にアドバイスできるようにする。 ②グループ内で自分が書いたアドバイスを を発表し、意見交換して修正する。 ③各グループの意見の中から、よい意見 を紹介する。</p> <p>・自分の生活について、ネット環境とのつき合い方の状況や改善点を学習カードにまとめる。</p>	<p>◆【知識・理解】</p> <p>健康な生活や疾病の予防をするためのネット環境について理解したことを言ったり、書き出したりしている。（観察・学習カード）</p> <p>○ネット環境の違いや年齢の違いなどを考慮して考えるよう助言する。</p> <p>○ワークシートに自分のアドバイスを書くように伝える。</p> <p>○「使わない」ではなく、「よりよい使い方」を意識して考えるように伝える。</p> <p>○できるだけ多くの事例に対して、アドバイスできるよう助言する。</p> <p>○友達の意見を参考にして、自分の意見を修正するよう伝える。</p> <p>◆【思考・判断】</p> <p>健康な生活と疾病の予防について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見付けたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。（観察・学習カード）</p>
ま と め	<p>5. 学習のまとめをする。</p> <p>・学習カードに本時のまとめを記入する。</p> <p>・本時の感想などを発表する。</p>	<p>○本時の学習内容を振り返り、ネットとのよりよいつき合い方を意識しながら生活する必要性について再確認する。</p>

(4) 資料

○本時で示した事例と生徒のアドバイス例

生活の状況	
<p>Aさん（15歳） 中学3年生</p> 	<p>音楽が好きな中学3年生で吹奏楽部に所属していた。9月の大会も終わり、現在は高校受験を目指し、週5日間塾に通っているため、帰宅は10時ごろになる。以前は、友達とよく携帯電話で話をするがあったが、最近は電話をする時間がない。友達からは着信が入るため、携帯電話が気になり、ストレスがたまってきて勉強に熱が入らなくなってきている。</p>
<p>○Point 高校受験、受験生、携帯電話、ストレス</p>	<p>(アドバイス例) 無理をして携帯電話を無視しようとするとうストレスが溜まって、勉強も頭に入ってきてませんね。携帯電話をかけないと決め込むのではなく、時間を決めてかけてみるということはどうでしょうか。勉強の予定を考える中で、休憩時間を利用するなど、計画を立て、メリハリをつけながら電話をかけてみてはいかがでしょうか。また、そのことを友達にも伝え、理解・協力してもらうことも大切ではないでしょうか。</p>
<p>Bさん（17歳） 高校2年生</p> 	<p>電車通学で時間がかかるため部活動には所属していない。まじめな性格で友達も多い方ではないが、スマートフォンを購入してからクラスの友達数人と無料通信アプリで通信を行うようになった。ある日、友達から「昨日の夜、返事がなかった」と責められたことから、返事を返すことが気になり、毎日、夜遅くまで携帯電話を手放せない状態となり、寝不足の状態が続いている。</p>
<p>○Point スマートフォン、無料通信アプリ、友達、寝不足</p>	<p>(アドバイス例) 通信アプリは友達同士のコミュニケーションツールとして便利なものですが、返信をするために夜遅くまで起きているのは健康面でもよいことではありませんね。一度、友達同士で約束を話し合ってみてはいかがでしょうか。案外、同じような思いで困っている友達もいるかもしれません。「10時以降は通信はしない」など、グループのルールを決めてみてはいかがでしょうか。</p>
<p>Cさん（23歳） 会社員</p> 	<p>子どもの頃はテレビゲームを毎日のように行っていた。会社員になってからはほとんどゲームをやっていないのだが、同僚から携帯電話を使ったオンラインゲームを教えてもらってからゲームをまた始めるようになった。初めのうちは、電車の移動中や休憩時間など、少しの時間だけ行っていたが徐々に時間が増え続け、今ではやらないと落ち着かない状態が続き、睡眠時間も極端に少なくなってきている。</p>
<p>○Point オンラインゲーム、落ち着かない、睡眠時間の減少</p>	<p>(アドバイス例) 自分も子どもの頃にゲームにハマって長い時間やっていたことがあります。ゲームには依存性があるため、強い意志をもって取り組まないといけないと思います。まずは、ゲームの依存性について調べてみる必要があります。そして、ゲームの代わりに軽い運動をする、趣味を増やすなど、毎日の生活の工夫から始めてみてはいかがでしょうか。</p>

2 实践事例

高等学校

(7) 高等学校（国語科）

校種	高等学校	学年	1年	教科等	国語総合	キーワード	インターネット
単元名	現代社会における問題点について考えよう。					指導する時間	全5時間
本時のねらい	インターネットの普及によって起こる問題点を筆者の考えを踏まえながらグループで話し合い、ネットワークの公共性を維持するために、主体的に行動しようとする態度を育成する。						
使用する資料	評論「ネットが崩す公私の境」（黒崎政男） 高等学校国語総合現代文編（三省堂）					指導事項	
						i5-1：ネットワークの公共性を維持するために、主体的に行動する	

高等学校第1学年 国語科（国語総合）学習指導案

- 1 単元名 現代社会における問題点について考えよう
評論 「ネットが崩す公私の境」（黒崎政男）

2 単元（題材）について

本単元の指導事項は、A（1）ア「話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること。」と、エ「話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。」を設定する。

本教材は、インターネットの影響によって「公」と「私」の境界が不明瞭になったことや、その出現によって誰もが「著者」となれるようになったことの弊害を批判した評論である。そこで、本教材を導入として「インターネットの普及によって起こる問題点」についての自分の考えをまとめ発表したり他の生徒の考えを聞いたりする言語活動を通して、ネットワークの公共性を維持するために主体的に行動しようとする態度を育てたい。

また、現在、携帯電話・スマートフォンを持つ生徒は、「情報社会」の渦中にあるといえる。情報伝達の手段が電子メディアへと移行しつつある今日、「情報社会」を担う存在となる生徒たちに、電子メディアの利点だけでなく負の面にも注意を向けさせ、そうした時代を生き抜くうえで必要となる確かな視点について深く考えさせる契機としたい。

3 単元（題材）の目標

- ① 教材に興味をもち、話す内容に対しての認識や態度を自らの内部に形成する。
- ② 話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。
- ③ 目的や場に応じた話し方や言葉遣いを理解する。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	知識・理解
教材に興味をもち、話す内容に対しての認識や態度を自らの内部に形成しようとしている。	①教材に興味をもち、話す内容に対しての認識や態度を自らの内部に形成している。 ②相手の話の内容についての評価を通して得た、優れた洞察や思考などを、自分自身の人間、社会、自然などに対する思いや考えを見直したり、深めたり、広げたりする契機としている。	目的や場に応じた話し方や言葉遣いを理解している。

5 指導と評価の計画（全5時間）

時数	活動内容	評価				
		関	話	知	評価規準	評価方法
1	○語句の意味を確認の上、全体の構成をとらえる。 ・第一段落から第二段落において、「筆者」の権威とその崩壊を読み取る。	○			教材に興味をもち、話す内容に対しての認識や態度を自らの内部に形成しようとしている。	観察 ノート
1	○語句の意味を確認の上、全体の構成をとらえる。 ・第三段落から第四段落において、インターネットの利点と欠点を読み取る。	○			教材に興味をもち、話す内容に対しての認識や態度を自らの内部に形成しようとしている。	観察 ノート
1	○教材や関連図書などを参考に「インターネットの普及によって起こる問題点」について自分の考えを作文（800字程度）にまとめる。			◎	教材に興味をもち、話す内容に対しての認識や態度を自らの内部に形成している。	作文
1 本時	○「インターネットの普及によって起こる問題点」についての作文をもとに、グループ協議を行った後、クラス全体で意見交流を行う。		◎	◎	・相手の話の内容についての評価を通して得た、優れた洞察や思考などを、自分自身の人間、社会、自然などに対する思いや考えを見直したり、深めたり、広げたりする契機としている。 ・目的や場に応じた話し方や言葉遣いを理解している。	観察

1	○前時の活動や関連図書などを基に、「インターネットの普及によって起こる自分と世界の関係」について自分の行動を振り返り、日常生活にどう繋げるかについて自分の考えを作文（800字程度）にまとめる。		◎	相手の話の内容についての評価を通して得た、優れた洞察や思考などを、自分自身の人間、社会、自然などに対する思いや考えを見直したり、深めたり、広げたりする契機としている。	作文
---	--	--	---	---	----

6 本時の指導（第4時）

（1）本時の目標

インターネットの普及によって起こる問題点について、グループで協議した後、クラス全体で意見交流を行い、ネットワークの公共性を維持するための自己の在り方について考えを深める。

（2）本時の評価規準

- 相手の話の内容についての評価を通して得た、優れた洞察や思考などを、自分自身の人間、社会、自然などに対する思いや考えを見直したり、深めたり、広げたりする契機としている。（話す・聞く能力）
- 目的や場に応じた話し方や言葉遣いを理解している。（知識・理解）

（3）学習の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価 (観点、方法等)
導入	○ インターネットの普及によって起こる問題点についてグループで意見交流をすることを理解する。	・作文「インターネットの普及によって起こる問題点」（800字程度）を基にグループで協議をすることと、筆者の考えを押さえて自分の意見を発表しあうことを確認する。	

展 開	○ インターネットの普及によって起こる問題点について、自分の考えをグループで発表し協議する。	・筆者の考えを押さえているかを確認するように指導する。その後、自分の意見をしっかり発表するよう指導する。	相手の話の内容についての評価を通して得た優れた洞察や思考などを、自分自身の人間、社会、自然などに対する思いや考えを見直したり、深めたり、広げたりする契機としている。【話す・聞く能力】(観察)
	○ インターネットの普及によって起こる問題点について、各グループで協議した内容をクラスで交流する。	・グループで協議した内容を各グループ2分で発表する。 ・メモをとりながら意見を聞くことを指導する。 ・グループ協議で、表面化しているトラブルだけでなく可視化できないトラブルにまで言及されていない場合は、次のグループ協議で考えるように指示する。	
	○ 最初のグループでの協議やクラスでの意見交流を通して自分の考えの変化について、グループで意見交流をする。	・最初のグループでの協議やクラスでの意見交流を通して自分の考えを見直したり、深めたり、広げたりするように助言する。	
ま と め	○ 次時の予告 ・本時の活動や関連図書などをもとに、「インターネットの普及によって起こる自分と世界の関係」について自分の行動を振り返り、日常生活にどう繋げるかについて自分の考えを作文(800字程度)にまとめることを聞く。	・各生徒の作文をまとめ、全員に返すようにすることを伝える。	

(8) 高等学校（ホームルーム活動）

校種	高等学校	学年	全学年	教科等	LHR	キーワード	インターネット投稿
題材名	情報社会における自分の責任や義務				指導する時間	1時間	
本時のねらい	インターネットを利用したSNS等の投稿がどのような影響を他者や自分に及ぼすかを知り、自他の情報の安全な取り扱いに関して、正しい知識をもち、情報社会における自分の責任や義務について考え行動できる態度を育てる。						
使用する資料	「情報の記録性、公開性の重大さ」出典：文部科学省 情報化社会の新たな問題を考えるための教材～安全なインターネットの使い方を考える～ 動画教材 http://jouhouka.mext.go.jp/information_moral_manual.html				指導項目		
					a5-1:情報社会において、責任ある行動をとり、義務を果たす		

高等学校 学級活動指導案

- 1 題材 「情報社会における自分の責任や義務」
内容 (2) ウ 社会生活における役割の自覚と自己責任

2 題材設定の理由

本題材は、ホームルーム活動の内容(2)適応と成長及び健康安全 ウ 社会生活における役割の自覚と自己責任に関わる活動として、生徒のインターネット利用の現状から、社会の一員としてその行為に自己責任が求められることを理解させ、社会的な自立を促すとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度と能力を養うことをねらいとしている。

インターネットを利用したSNS等への投稿は、スマートフォン等の普及から容易に、誰もが出来るようになった。そのことから、安易な自分本位の投稿が社会問題となっている。学校教育においてインターネットを利用した投稿のモラルやリスクを幅広い視野で考え、知識をもって正しく利用する姿勢や態度を身に付けることが大切である。また、利便性と危険性の両面に気付くことにより、正しく使うことの重要性を認識させたい。

具体的には、インターネットを利用したSNS等の投稿がどのような影響を他者や自分に及ぼすかを知り、自他の情報の安全な取り扱いに関して、正しい知識をもち、情報社会における自分の責任や義務について考え行動できる態度を身に付けさせたい。

併せて、一度インターネット上に出回った情報は回収不可能だということ、それが将来の自分に影響を及ぼすこともあることなども考えさせたい。

3 指導のねらい

インターネットを利用したSNS等の投稿がどのような影響を他者や自分に及ぼすかを知り、自他の情報の安全な取り扱いに関して、正しい知識をもち、情報社会における自分の責任や義務について考え行動できる態度を育てる。

4 評価規準【学級活動（2）の評価規準】

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自己の生活の充実と向上に関わる問題に関心をもち、自主的、自律的に日常の生活を送ろうとしている。	日常の生活における自己の課題を見出し、自己を生かしながら、よりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	集団や社会への適応及び健康で安全な生活を送ることの大切さや実践の仕方、自他の成長などについて理解している。

5 指導の過程

(1) 事前の指導と生徒の活動

活動の内容	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
携帯電話、スマートフォン等の利用状況についてのアンケート調査に答え、自分の問題について考える。	クラスの生徒の問題の状況を調査等により確認し、家庭へアンケート実施のお知らせ、調査結果を基に家庭で話し合いをもってもらおうこと等を依頼しておく。	【関心・意欲・態度】 情報社会に関心をもち、携帯電話、スマートフォン等のトラブルを身近な問題として受け止めている。（アンケート調査）

(2) 本時の指導と生徒の活動

① 本時のねらい

インターネットでの投稿が他者や自分に及ぶ影響を知り、適正な行動の在り方を考える。

② 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価（観点，方法等）
活動の開始	○携帯電話、スマートフォン等の利用状況やそれにまつわるホームでの実態や各自の考えを知る。	・事前アンケートを基に、ホームでの状況がどうなっているのかを知らせる。 ・日頃経験しているインターネット上でのやり取りのプラス面、誤解を招いて困るなどのマイナス面を最近の新聞記事等を利用してインターネット上で行き違いが刑事事件に発展している例を示すことによって気付かせる。	
	○本時の目標を知り、課題解決の心構えをつくる。	・本時の活動の概要を簡潔に説明し、ねらいを提示する。	
	本時の目標：インターネットでの投稿が他者や自分に及ぶ影響を考える。		

<p>活 動 の 展 開</p>	<p>○提示動画を視聴する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ストーリー①：情報の記録性、公開性 ストーリー②：情報の公開性、記録性 ストーリー③：肖像権、情報の公開性、記録性</p> </div> <p>○各自がワークシートに考えをまとめる。以下の点について各自の考えを発表し合う。 「投稿された写真は今後どうなるのか」 「写真は回収できるのか」 「自分の将来にどのような影響が及ぶか」</p> <p>○グループで話し合う。</p> <p>○全体で共有する。 グループごとの発表を聞き、新たな考えや思いがあったら追加発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の意見を否定したり、同意を求めたりすることのないように指示を与える。 ・問題点に気付かない生徒には、肖像権に触れる実例で他者の権利の説明を加える。 ・法律等だけでなく、文言による他者への影響にも配慮できるように事例をあげ助言する。 ・ホームの実態や指導者の意図により必要に応じて①～③の動画を選択して視聴する。(①～③を活用する場合は、ストーリー毎に考えさせると混乱がない。) ・インターネット上に流出した情報は回収できないこと、それが友達や自分の将来に影響を及ぼす可能性があることに気付かせる。 <p>・危険性を最小限に留め、利便性をできるだけ失わない工夫について話し合いが進むように助言する。</p>	<p>【思考・判断・実践】 責任あるSNSの利用の仕方等について考え、理由を示して自己の意見を述べている。</p> <p>【観察・ワークシート】</p>
----------------------------------	--	---	---

活動のまとめ	<p>○解説教材を視聴する。 インターネットを利用したトラブルがどういう影響を及ぼすかを知る。情報の漏えい、改ざん、なりすまし等、インターネットの特性から、他者や社会への影響を知る。</p> <p>○全体で共有する。 ・正しく使うことでインターネットはその利便性が向上することを知る。 ・自分の発信が企業や社会にも影響を及ぼすことがあることを知る。</p> <p>○これからどのようなことに注意して、SNSなどを利用していくか、情報社会において、自分はどのような行動をとるべきかを考え、ワークシートにまとめる。</p>	<p>・影響が広範囲であり、将来に渡るものであることを押さえる。 ・生徒のまとめを机間指導により探り、本時のまとめとなる生徒を指名する。</p> <p>・リスクや危険をことさら強調せず、自分の意思で回避できるものであること、インターネットの利点にもふれ、プラス面・マイナス面からまとめを行う。</p> <p>・情報社会の一員として、社会的な責任があることについて意識を醸成する。</p>	<p>【関心・意欲・態度】 情報社会の一員として、責任ある行動を取ろうとしている。 〔観察・ワークシート〕</p> <p>【知識・理解】 情報社会で適正な活動を行うための基本的な考え方を理解している。 〔ワークシート〕</p>
--------	---	---	---

6 事後の指導と生徒の活動

生徒の活動	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
SNSの利用の仕方等について、自分で決めたことの実践状況や家庭で話し合ったことを報告し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・一定期間経過後、実践状況や家庭での話し合いの状況について振り返る場を設ける。 ・グループ内で、互いのよい点を認め合うことを通して、実践への意欲を高める。 	<p>【思考・判断・実践】 情報社会の一員としての自覚をもち、適正な行動の仕方について考え、<u>実践している。</u>（観察）</p>

7 準備物

ワークシート

8 備考 動画教材

https://www.youtube.com/watch?feature=player_detailpage&v=tDuMdiMoKlg&list=PLGpGsGZ3lmbA0d2f-4u_Mx-BCn13GywDI

《事前アンケート》

1. あなたは、携帯電話・スマートフォンを持っていますか。 はい ・ いいえ

※「いいえ」と回答した人は以上です。「はい」と回答した人は以下についても回答してください。

2. あなたは、インターネット(SNS等)を利用していますか。 はい ・ いいえ

3. あなたは、インターネット(SNS等)に写真を投稿したことがありますか。 はい ・ いいえ

4. あなたは、インターネット(SNS等)で何かトラブルにあったことはありますか。あった場合はどのようなトラブルにあったか具体的に書いてください。

5. あなたは、インターネット(SNS等)にはどんな良い面があると思いますか。

6. あなたは、インターネット(SNS等)にはどんな悪い面があると思いますか。

7. その他、インターネット(SNS等)で気になることがあれば、書いてください。

《ワークシート》

_____年_____ホーム_____番 氏名_____

1. 投稿された写真は今後どうなると思いますか。具体的に書いてください。

個人の意見	グループの意見
メモ欄(感想等)	

2. 写真は回収することができると思いますか。また、そう思ったのはなぜですか。

個人の意見	グループの意見
メモ欄(感想等)	

3. 自分の将来にどのような影響が及ぶと思いますか。

個人の意見	グループの意見
メモ欄(感想等)	

4. 情報社会において、SNSなどを利用する場合、どのような行動をとるべきだと思いますか。

個人の意見	グループの意見
メモ欄(感想等)	

5. これからあなたが、SNSなどを利用する場合、どのようなことをしますか。(理由もあわせて)

--

※SNS・・・ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略

3 參考資料

参考サイト

○ 本資料集に掲載している実践事例に活用した教材及び参考・引用資料

- ・ 情報化社会の新たな問題を考えるための児童生徒向けの教材、教員向けの手引書 【文部科学省】

http://jouhouka.mext.go.jp/information_moral_manual.html

- ・ 「教育の情報化に関する手引」【文部科学省】

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1259413.htm

- ・ 平成 25 年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査【文部科学省】

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/10/1351936.htm

- ・ 情報モラル教育実践ガイドンス 【国立教育政策研究所】

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/jouhoumoral/>

- ・ 「情報モラル指導実践キックオフガイド」【教員研修センター】

http://www.nctd.go.jp/5min_moral/contents/download/moralguide_all.pdf

- ・ ネット社会の歩き方 【一般社団法人 日本教育情報化振興会】

<http://www2.japet.or.jp/net-walk/>

- ・ 平成 26 年度青少年のインターネット利用環境実態調査結果 【内閣府】

<http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h26/net-jittai/gaiyo.html>

- ・ 平成 26 年上半期の出会い系サイト及びコミュニティサイトに起因する事犯の現状と対策について【警察庁】

http://www.npa.go.jp/cyber/statics/h26/h26_community-1.pdf

○ 情報モラルの授業に役立つ参考資料

- ・ 小学校道徳 読み物資料集 【文部科学省】

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/detail/1303863.htm

<情報モラルを取り上げた 5 編>

「みんなの ニュース がかり」「少しだけなら」「レストランで」「知らない間の出来事」「幸せコアラ」

- ・ 中学校道徳 読み物資料集 【文部科学省】

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/detail/1318785.htm

<情報モラルを取り上げた 2 編> 「ネット将棋」「言葉の向こうに」

- ・ 情報モラル教育実践ガイドンス 【国立教育政策研究所】
<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/jouhoumoral/>
 - ・ 平成 19 年度文部科学省委託事業 情報モラル指導セミナー「5分でわかる情報モラル」
【財団法人コンピュータ教育開発センター（CEC）】
http://www.nctd.go.jp/5min_moral/index.html
 - ・ 「情報モラル」授業サポートセンター 【教員研修センター】
<http://www.nctd.go.jp/support/index.html>
 - ・ インターネット安全教室 【情報処理推進機構】
<http://www.net-anzen.go.jp/>
 - ・ e-ネット安心講座（e-ネットキャラバン）
<http://www.e-netcaravan.jp/>
 - ・ フィルタリングをご存じですか？ 【総務省】
http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/d_syohi/filtering.html
 - ・ 情報通信白書 for Kids 【総務省】
http://www.soumu.go.jp/joho_tsusin/kids/index.html
 - ・ キッズ・パトロール
<http://www.cyberpolice.go.jp/kids/index.html>
 - ・ あぶない！出会い系サイト 【警察庁】
<http://www.npa.go.jp/cyber/deai/>
 - ・ サイバー犯罪対策 情報セキュリティ対策ビデオ 【警察庁】
<http://www.npa.go.jp/cyber/video/index.html>
- 教職員研修で活用できる参考資料
- ・ 「教育の情報化に関する手引」【文部科学省】
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1259413.htm
 - ・ 子どもたちの携帯電話をめぐる問題【文部科学省】
http://www.mext.go.jp/a_menu/seisyounen/keitai/index.htm

- ・ 「ネット上のいじめ」に関する対応マニュアル・事例集【文部科学省】
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/20/11/08111701.htm
- ・ 被害事例と対処法【警察庁】
<http://www.npa.go.jp/cyberpolice/case/pc/>
- 情報教育をめぐる現状理解のための参考資料
 - ・ インターネット利用環境整備【内閣府】
<http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/index.html>
 - ・ インターネット上の違法・有害情報対策【内閣官房】
<http://www.it-anshin.go.jp/>
 - ・ 国民のための情報セキュリティサイト【総務省】
http://www.soumu.go.jp/joho_tsusin/security/index.htm
 - ・ インターネットトラブル【国民生活センター】
<http://www.kokusen.go.jp/topics/internet.html>
 - ・ インターネットトラブル【警察庁】
<http://www.npa.go.jp/nettrouble/index.htm>
 - ・ 警察庁サイバー犯罪対策【警察庁】
<http://www.npa.go.jp/cyber/>
 - ・ インターネット安全・安心相談【警察庁】
<http://www.npa.go.jp/cybersafety/>

「情報モラル教育実践事例集」編集委員

田上 禎久 (土佐市教育研究所研究教諭)

山本 儀浩 (高知県教育委員会事務局スポーツ健康教育課課長補佐)

市原 俊和 (高知県教育委員会事務局教育政策課チーフ)

森下 裕一 (高知県教育委員会事務局人権教育課チーフ)

飯田 努 (高知県教育委員会事務局人権教育課指導主事)

岡崎 大幸 (高知県教育委員会事務局人権教育課指導主事)

安岡 正輝 (高知県教育委員会事務局人権教育課指導主事)

「情報モラル教育実践事例集」

平成27年3月

編集・発行 高知県教育委員会

〒780-0850 高知市丸ノ内1丁目7番52号

Tel 088-821-4932 (人権教育課)